

日本を代表する文豪である川端康成 原作の映画化作品の特集



特別企画

川端康成 原作映画特集

特別企画

日本を代表する文豪である川端康成原作の映画化作品の特集

川端康成 原作映画特集

会期:11月1日(木)~11月25日(日) ※休館日・休映日除く

観覧料:600円(大人)/500円(大学生・高校生)/400円(中学生・小学生)

※定員制。各回入替制。

※チケットはすべて当日券。前売り券はありません。

※障がい者の方及び福岡市在住の65歳以上の方は300円。(手帳の提示が必要です。)

※「わの会」会員は300円(会員証の提示が必要です。)

川端康成原作映画特集講演会

「川端康成vs映画監督

—映画は原作に優ったか—

日時:11月3日(土・祝) 14:00~14:50

講師:矢野寛治(書評・映画ライター)



矢野寛治

1948年大分県中津市生まれ。成蹊大学卒業後博報堂入社。コピーライターとして勤務。2008年に退社し、現在コピー&文案オフィス「矢野寛々房」主催。書評、映画評、エッセイを執筆すると共に、中洲次郎の名でコラム、エッセイを連載している。RKB「今日感テレビ」コメンテーター。主な著書に「ふつうのコピーライター」(共著 宣伝会議刊)「なりきり映画考」(書肆侃侃房刊)、「団塊少年」(筆名中洲次郎)などがある。

※開場は開演の30分前。

※講演は有料で、15:00からの「山の音」とセット料金です。

1 (木) 14:00 | 4 (日) 14:00 | 8 (木) 14:00

雪国

日本画家の島村は、雪に埋もれた温泉町で知り合った駒子が忘れられず、再び町にやって来る。駒子は義理の母と息子の行男の病気の治療費のために芸者になっていた。駒子の島村への想いは強まるが、島村は東京に妻子がいた。日本文学の名高い同名小説の映画化で、ほぼ原作に忠実に映画化されている。雪国の映像も美しいが、岸恵子演じる駒子の姿は大変魅力的である。



監督:豊田四郎
出演:池部良 岸恵子

1957年/35ミリ/モノクロ/134分/東宝

14 (水) 14:00 | 18 (日) 11:00 | 24 (土) 17:00

雪国

昭和10年。偶然温泉町に逗留した翻訳家の島村は、そこで駒子という女性と出会う。島村は駒子の清楚な魅力に惹かれ、7ヶ月後今度は駒子に逢うためにその町にやってくる。その時駒子は芸者になっていた。島村は複雑な事情があることを知る。「雪国」の2度目の映画化作品。駒子を演じる岩下志麻は、しっとりと情感のある芯の強い女性像を見せる。雪国の景色も美しい。



監督:大庭秀雄
出演:木村功 岩下志麻

1965年/35ミリ/カラー/113分/松竹

2 (金) 14:00 | 8 (木) 11:00 | 10 (土) 14:00

千羽鶴

三谷菊治の父親は生前栗本と太田という二人の女性の面倒を見ていた、太田夫人は父親の面影を残す菊治に想いを寄せるが、太田夫人を憎む栗本は菊治に見合いの話を持って来る。51年度芸術院賞を受賞した同名小説の映画化。幻想的で耽美的な世界を新藤兼人が脚本化、女性の執念と儂さを、美しく妖艶な映像の中に描き出す。



監督:吉村公三郎
出演:森雅之 木暮実千代

1953年/35ミリ/モノクロ/110分/大映

17 (土) 14:00 | 21 (水) 14:00 | 25 (日) 14:00

千羽鶴

「千羽鶴」の2度目の映画化作品。川端康成のノーベル文学賞受賞記念として企画されたもので、企画の発案は市川雷蔵だった。当然雷蔵が主役の予定であったが、病気のため平幹二郎が主役を演じている。53年に映画化された時と同じ新藤兼人による脚本だが、増村監督と若尾文子のコンビとなり、増村監督らしいドライな感覚の作品となった。吉村監督版とはかなり違った印象を残す。



監督:増村保造
出演:平幹二郎 若尾文子

1969年/35ミリ/カラー/96分/大映

3 (土・祝) 15:00 | 15 (木) 11:00 | 23 (金・祝) 14:00

山の音

年若い尾形信吾は妻の保子、息子の修一、嫁の菊子と暮らしていた。修一は信吾が専務を務める会社の社員で、浮気をしており菊子との仲は冷え切っていた。信吾はただ黙々と耐えている菊子が不憫だった。しかし保子などは信吾が菊子をかかわいがることに不満だった。ある日信吾は病院に行く菊子を送るが、それは修一の子供を墮すためだった。後日信吾は修一の愛人もまた妊娠したことを知るのだった。

成瀬巳喜男監督の川端康成の小説の映画化は「乙女ごころ三人姉妹」「舞姫」に次いで3本目。「山の音」は芸術院賞を受賞し戦後文学を代表する名作として知られている。成瀬監督は映画化に際し、原作に流れる「死」の予感や背徳的な匂いを極力排除したと語っているが、本作の最大の魅力は、原節子が演じる菊子と山村聡が演じる信吾との間の、官能的でサスペンスに満ちた関係にある。

1954年/35ミリ/モノクロ/95分/東宝

監督:成瀬巳喜男 出演:山村聡 原節子



11 (日) 11:00

伊豆の踊子

伊豆を徒歩で旅行する水原は旅芸人の一座に出会い、一緒に旅を始める。水原は若い踊子の薫にひかれる。薫の兄の米吉は以前は鉾山を持っていたが、湯本楼の宿屋の主人に売ってしまっていた。「伊豆の踊子」の最初の映画化作品。原作は短い小説だが、文芸作品をメロドラマとして映画化し、興行的に成功した最初の作品である。

※本作は音のないサイレント映画です。

1933年/16ミリ/モノクロ/サイレント/93分/松竹



監督:五所平之助
出演:田中絹代 大日方伝

10 (土) 17:00 | 16 (金) 14:00 | 23 (金・祝) 11:00

伊豆の踊子

昭和初期、一高生水原は学校に悩んで修善寺に滞在する先輩の小説家を訪ねる。そこで旅芸人の踊子・薫に出会った水原は、旅芸人の一行と旅をすることに。田中絹代版より原作に近づいている。美空ひばりが子役から大人の役者になるためのステップとして位置づけられるアイドル映画。新進気鋭の若手監督だった野村芳太郎が演出している。



監督:野村芳太郎
出演:美空ひばり 石浜朗

©1954松竹

1954年/16ミリ/モノクロ/98分/松竹

4 (日) 11:00 | 9 (金) 14:00 | 17 (土) 11:00

伊豆の踊子

昭和初期、友人と伊豆を旅する一高生の水原は、宿屋で酔客に絡まれる旅芸人の踊子・薫を助ける。以後水原は旅芸人一行と旅を共にする。「伊豆の踊子」三度目の映画化作品。原節子の再来と言われた人気女優・鰐淵晴子と津川雅彦のコンビは新鮮な印象だが、この原作には現代的な顔立ちの二人はやや不似合いだった。



監督:川頭義郎
出演:鰐淵晴子 津川雅彦

©1960松竹

1960年/35ミリ/カラー/87分/松竹

16 (金) 11:00 | 22 (木) 11:00 | 25 (日) 11:00

伊豆の踊子

大正末期。伊豆を徒歩で旅行する一高生の川島は、途中下田に向かう旅芸人の一座に出会う。一座の踊子・かおるに興味を抱いた川島は一座と旅を共にする。川島に仄かな恋心を持つかおるだが、それは身分違いの恋だった。「伊豆の踊子」6度目の映画化作品。アイドル歌手だった山口百恵の映画デビューのための作品だが、見事な演技で女優デビューとなった。6つの「伊豆の踊子」の中では最も原作に忠実に作られている。



監督:西河克己
出演:山口百恵 三浦友和

1974年/35ミリ/カラー/82分/東宝=ホリプロ

2 (金) 11:00 | 17 (土) 17:00 | 24 (土) 14:00

川のある下町の話

下町にある病院のインターン・栗田義三は、ある日吉田ふさ子と知り合う。二人は愛し合うのだが、ふさ子は貧しく、義三の伯父は、義三を娘桃子と結婚させて病院を継がせようと思っていた。ふさ子は家が取り壊され、義三の下宿を訪れるが、そこで桃子と出くわしてしまう。同名小説の映画化作品。義三はヒューマニズム溢れる好青年であり、美しい純愛メロドラマである。



監督:衣笠貞之助
出演:根上淳 有馬稲子

©1955角川映画

1955年/16ミリ/モノクロ/107分/大映

3 (土・祝) 11:00 | 7 (水) 14:00 | 10 (土) 11:00

女であること

弁護士の佐山貞次は妻・市子と結婚して10年で、家には佐山が弁護する受刑者の娘妙子が同居していた。そこへ市子の親友の娘さかえが家出してくる。妙子もさかえも佐山夫妻にあこがれるが、やがてさかえは貞次を慕うようになる。話題となった同名小説の映画化作品で、映画化権は映画会社各社の争奪戦となった。タイプの違う三人の女性の中に様々な女の姿が描かれている。



監督:川島雄三
出演:森雅之 原節子

©東宝

1958年/35ミリ/モノクロ/100分/東京映画

9 (金) 11:00 | 15 (木) 14:00 | 18 (日) 14:00

古都

京都の呉服問屋の娘・千重子は捨て子だったが、何不自由なく育てられた。ある日千重子は北山杉を見に行き自分そっくりの娘を目撃する。祇園祭の日、千重子は再び同じ娘と出会う。彼女は苗子といい、赤ん坊の頃別れた双子の姉妹を探しているという。二人は姉妹であることを確信する。若下志麻が千重子と苗子の2役を演じる。祇園祭や時代祭など京都の風物が見事に描かれている点も見所。



監督:中村登
出演:若下志麻 長門裕之

©1963松竹

1963年/35ミリ/カラー/105分/松竹

11 (日) 14:00 | 22 (木) 14:00 | 24 (土) 11:00

美しさと哀しみと

作家の大木年雄は、新進作家の頃京都で16歳の音子と愛し合う。音子は子供を死産して自殺未遂を図る。大木はその事を小説として発表し名声を得る。20年後大木は久しぶりに京都の音子を訪ねる。大木を迎えたのは音子の弟子のけい子という女性で、けい子はかつて音子を苦しめた大木を憎んでいた。官能と狂気を漂わせる魔性の女・けい子を加賀まりこが魅力的に演じている。



監督:篠田正浩
出演:加賀まりこ 山村聰

©1965松竹

1965年/35ミリ/カラー/103分/松竹

1・木		14:00 雪国(豊田四郎監督)	
2・金	11:00 川のある下町の話	14:00 千羽鶴(吉村公三郎監督)	
3・土/祝	11:00 女であること	14:00 矢野寛治講演会	15:00 山の音
4・日	11:00 伊豆の踊子(梶淵晴子)	14:00 雪国(豊田四郎監督)	
5・月		休館日	
6・火		休映日	
7・水		14:00 女であること	
8・木	11:00 千羽鶴(吉村公三郎監督)	14:00 雪国(豊田四郎監督)	
9・金	11:00 古都	14:00 伊豆の踊子(梶淵晴子)	
10・土	11:00 女であること	14:00 千羽鶴(吉村公三郎監督)	17:00 伊豆の踊子(美空ひばり)
11・日	11:00 伊豆の踊子(田中絹代)	14:00 美しさや哀しみと	
12・月		休館日	
13・火		休映日	
14・水		14:00 雪国(大庭秀雄監督)	
15・木	11:00 山の音	14:00 古都	
16・金	11:00 伊豆の踊子(山口百恵)	14:00 伊豆の踊子(美空ひばり)	
17・土	11:00 伊豆の踊子(梶淵晴子)	14:00 千羽鶴(増村保造監督)	17:00 川のある下町の話
18・日	11:00 雪国(大庭秀雄監督)	14:00 古都	
19・月		休館日	
20・火		休映日	
21・水		14:00 千羽鶴(増村保造監督)	
22・木	11:00 伊豆の踊子(山口百恵)	14:00 美しさや哀しみと	
23・金/祝	11:00 伊豆の踊子(美空ひばり)	14:00 山の音	
24・土	11:00 美しさや哀しみと	14:00 川のある下町の話	17:00 雪国(大庭秀雄監督)
25・日	11:00 伊豆の踊子(山口百恵)	14:00 千羽鶴(増村保造監督)	
26・月		休館日	
27・火		休映日	
28・水		休映日	
29・木		休映日	
30・金		休館日	

川端康成原作映画特集

川端康成と映画

川端康成は1899年大阪に生まれる。父親は医者だったが、15歳までに近親全部を失う。第一高等学校を卒業後、東京帝国大学文学部英文学科入学。のちに国文学科に転科する。大学在学中に同人誌「新思潮」(第6次)を創刊。そこに発表した「招魂祭一景」が菊池寛に評価され、「文藝春秋」に作品を発表ようになる。1924年横光利一らと共に同人雑誌「文藝時代」を創刊して新感覚の文学運動を展開する。「伊豆の踊子」「浅草紅団」「禽獣」「雪国」などの作品を発表。戦後は「千羽鶴」「山の音」「古都」など日本文学史に残る名作を発表する。1968年日本人初のノーベル文学賞受賞。1972年に伊豆のマンションでガス自殺する。今年には川端康成没40年にあたる。

川端康成と映画の係わりは、日本初のインディペンデント映画と言われる「狂った一頁」(1926年 衣笠貞之助監督)の脚本執筆から始まる。また33年の「伊豆の踊子」は文芸映画ブームの先駆けともなった。戦前に映画化された作品では「乙女ごころ三人姉妹」(35年 成瀬巳喜男監督)「有りたうさん」(36年 清水宏監督)等がある。戦後は今回上映する作品以外にも「浅草紅団」(52年 久松静児監督)「風のある道」(59年 西河克己監督)「眠れる美女」(68年 吉村公三郎監督)など数多くの作品が映画化されている。



千羽鶴©1969角川映画

information

福岡市総合図書館 映像ホール・シネラ

〒814-0001 福岡市早良区百道浜3丁目7番1号

福岡市総合図書館(代表): tel.092-852-0600

映像資料課: tel.092-852-0608 fax.092-852-0609



福岡市総合図書館映像ホール・シネラ ホームページ

うえぶシネラ <http://www.cinela.com>

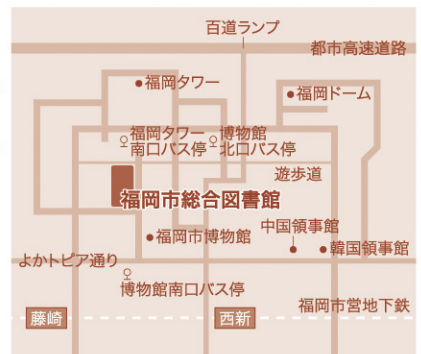
Access

当館の駐車場スペースに限りがありますので、できるだけ公共交通機関をご利用ください。

市営地下鉄
西新駅または藤崎駅下車徒歩15分

西鉄バス

●博多駅、天神、西新から福岡タワー南口下車徒歩5分または博物館南口下車徒歩5分
●藤崎から福岡タワー南口下車徒歩5分
●所要時間は交通事情により異なります。バス運行時間、目的地までの所要時間の目安、またお近くのバス停からのご利用については西鉄お客様センター[[tel.0570-00-1010](tel:0570-00-1010)]に直接お問い合わせください。



第323回プロムナードコンサート

◆◆◆月に一度のお昼休みのクラシックコンサート◆◆◆

日 時: 2012年11月22日(木) 12:00~13:00 ※入場無料
場 所: 西日本シティ銀行本店1Fエントランスホール(福岡市博多区博多駅前3-1-1)
曲 目: ドヴォルザーク作曲 弦楽四重奏曲第10番変奏木長調 Op.51 他
演奏者: 福岡ハイドン弦楽四重奏団
主 催: 公益財団法人福岡文化財団 TEL.092-473-6777

